



第40回

作文・図画コンクール作品集



ごはん お米とわたし



 JA岩手県中央会

目次

◆ごあいさつ	1
JA岩手県中央会 会長 田沼 征彦	
◆図画部門入賞作品	2
◆作文部門入賞作品	8
◆総評	14
審査委員長／岩手県教育委員会 委員長 八重樫 勝	
◆図画部門を審査して	14
元岩手県国公立幼稚園協議会 会長 伊藤 満久	
◆作文部門を審査して	15
盛岡市教育委員会 学校教育課 指導主事 小林 満	
◆コンクール入賞一覧	16
◆コンクール概要	20



いづみこうけん

J A 岩手県中央会

会長 田沼征彦

第四十回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールに、作品をご応募いただきましたみなさまにお礼を申し上げますとともに、入選された方々には心からのお祝いを申し上げます。

このコンクールは、子どもたちに、お米やごはん食がどのように作られ食卓に並んでいるのか、そして稲作が地域においてどんな役割を果たしているかなどを知っていただくことを目的として実施いたしております。

四十回目を迎えた今回も、県内各地から作文八十点、図画一五八点もの力作が寄せられました。この中から全国コンクールにおいて、作文部門二点、図画部門一点が優秀賞に選ばれました。また、東日本大震災からの復興途中にも関わらず、被災地域の学校からも作品をご応募いただきましたことにお礼を申しあげます。復興にはたくさんの時間と多くの人の力を必要とし、困難も多いと思いますが、負けずがんばってください。

J Aグループでは、日本の「食」とは何かを考え、その「食」を生み出している日本の農業を好きになっていただくという取組を全国

的に進めております。「食」の未来をつくることは、日本の未来をつくることにつながります。その中心となるのが、古くから日本人の食卓に並び、親しまれ、日本の食文化を築いてきたお米です。

このコンクールが、地域で心を込めて育てられたお米がどんなにおいしく、そのお米づくり・農業がどんなにすばらしいものか実感いただき、みなさん一人ひとりが農業について考えていただく機会になれば幸いです。

最後に、今回ご応募いただいた学校の先生方をはじめ、関係するみなさま方のご支援とご協力に感謝を申しあげ、ごあいさつとさせていただきます。

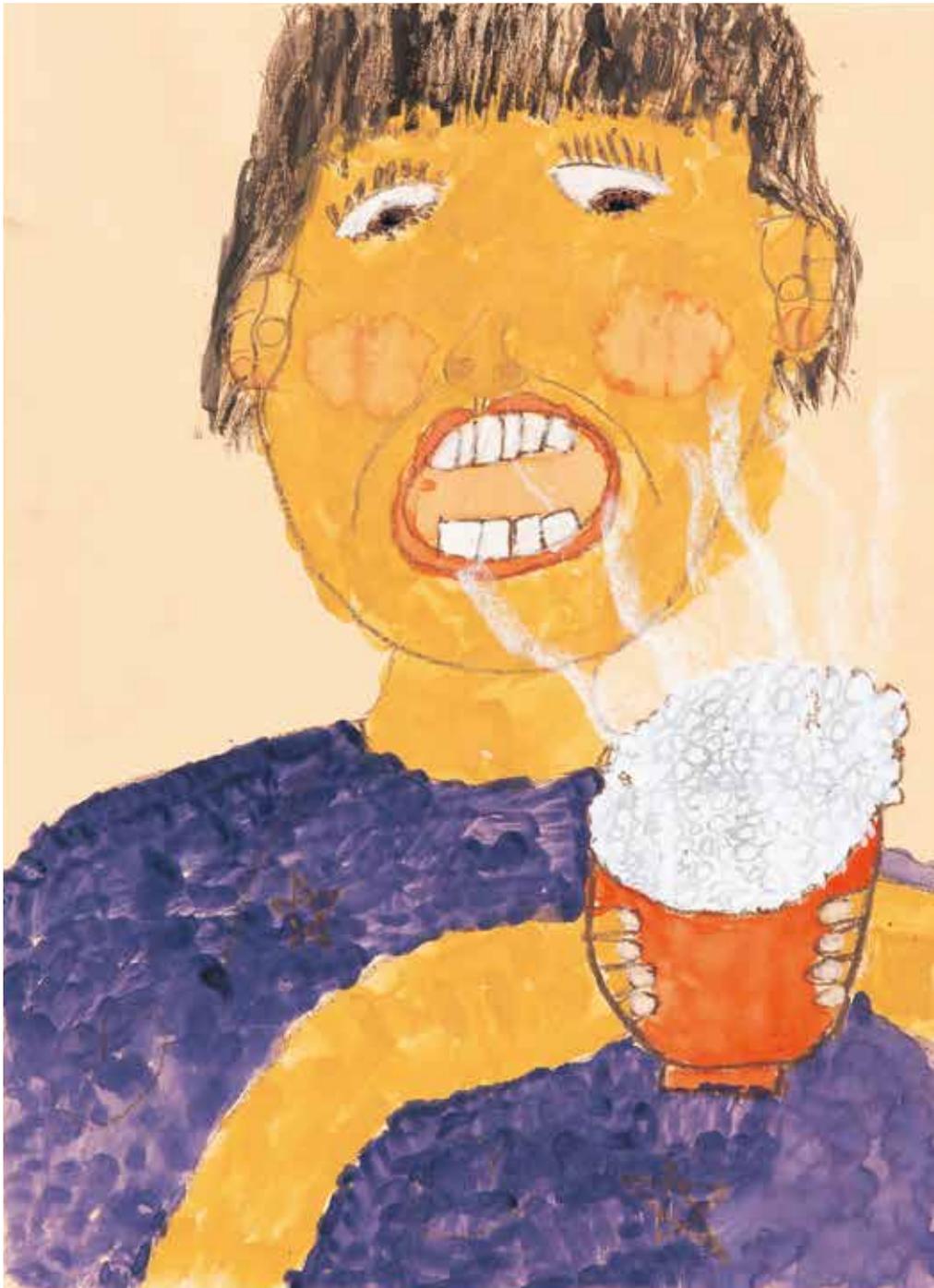
図画部門

ぜんこくゆうしゅうしょう
全国優秀賞
いわてけんちじしょう
岩手県知事賞

「おいしいごはん 食べるぞ」

ふじ わら はる な
藤原悠奈

はなまき しりつうちかわ め しょうがっこう ねん
花巻市立内川目小学校 2年



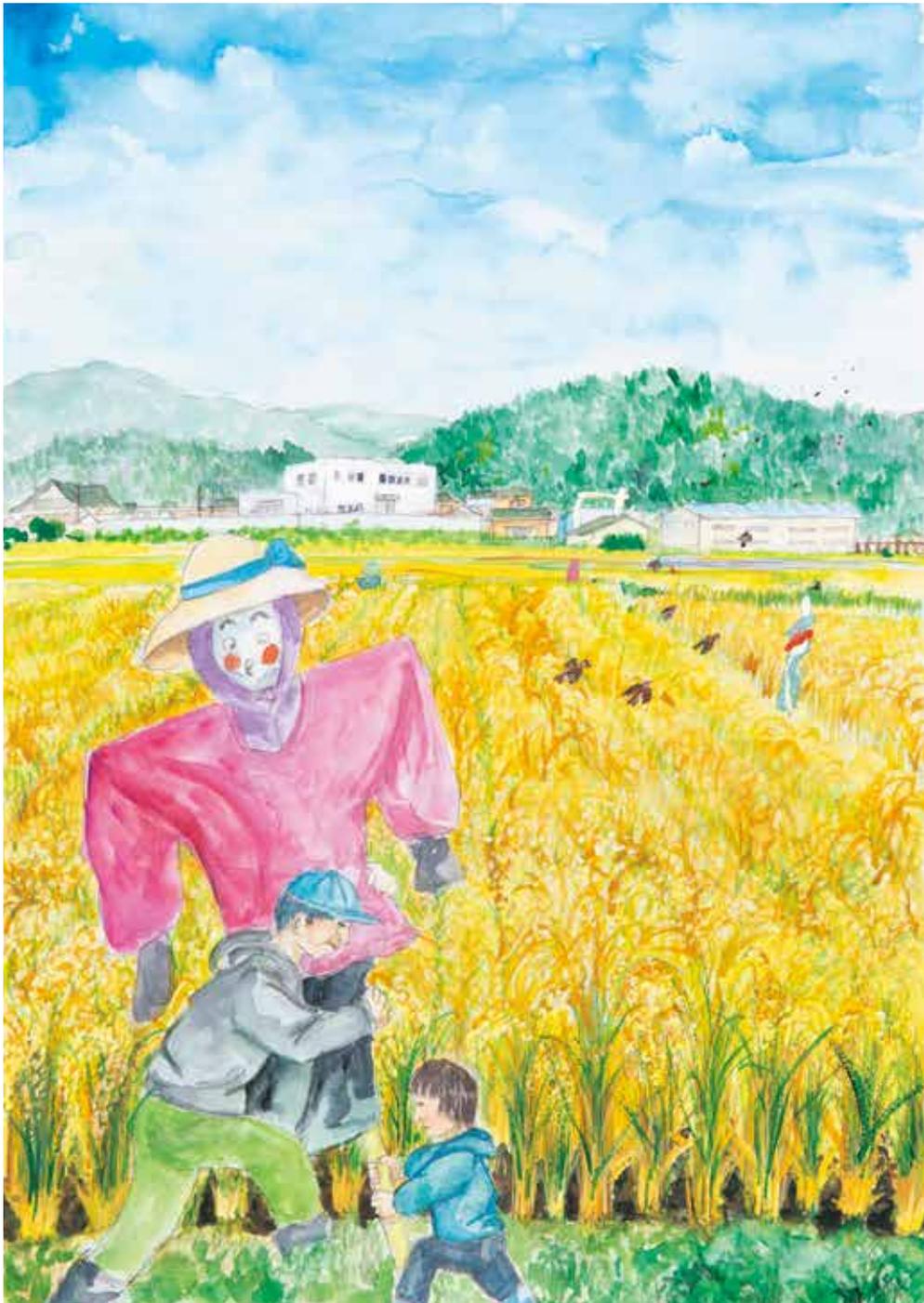
図画部門

いわてけんきょういくちょうしょう
岩手県教育長賞

「田んぼとかかし」

ふるかわ
古川このみ

おおふなとしりつりょうりちゅうがっこう ねん
大船渡市立綾里中学校 1年

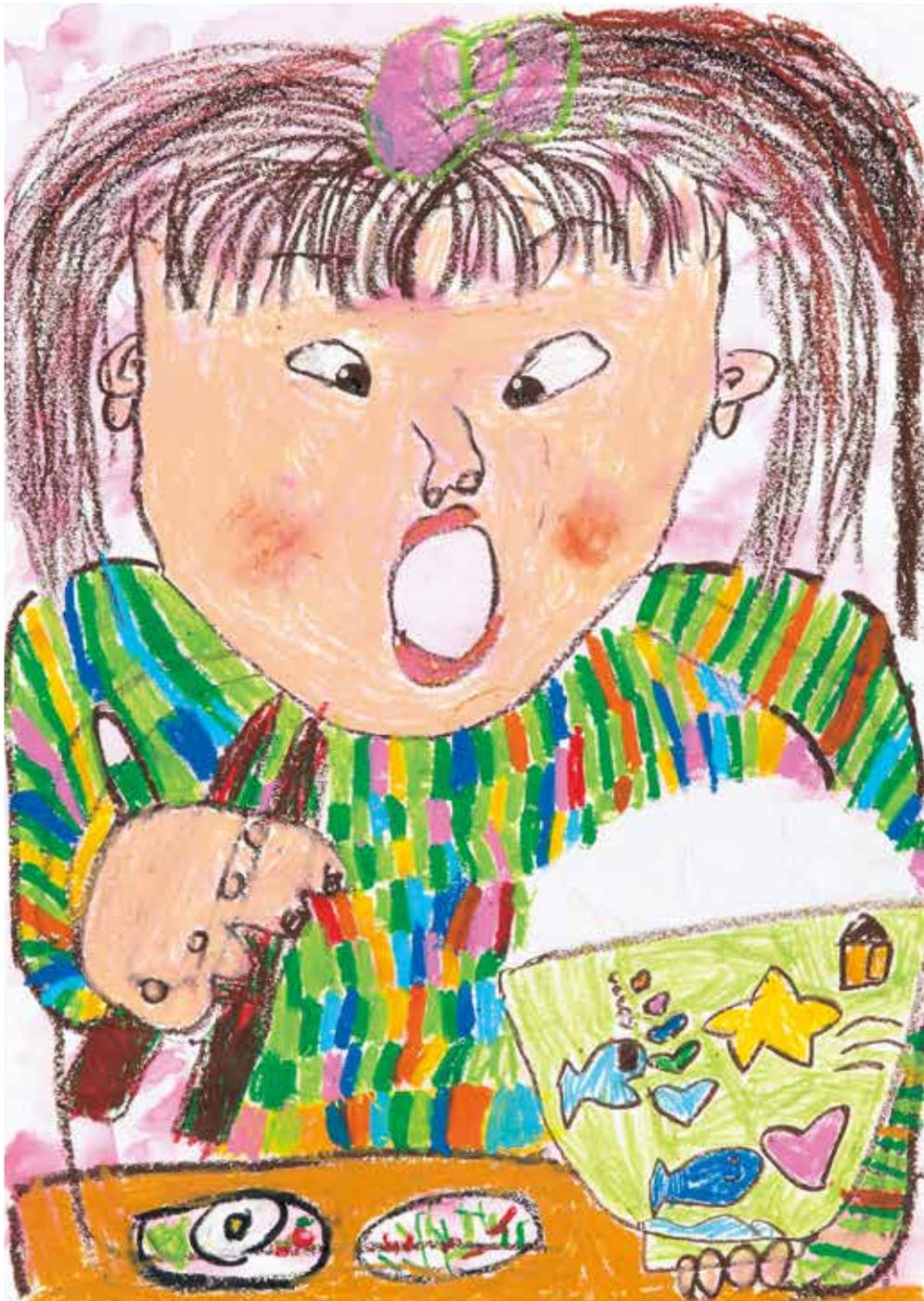


とうほくのうせいきよくいわてしきょくちようしょう
東北農政局岩手支局長賞

「さあ、たべるぞ」

さとうみいな
佐藤未唯奈

いちのせきしりつおいまつしょうがっこう ねん
一関市立老松小学校 1年



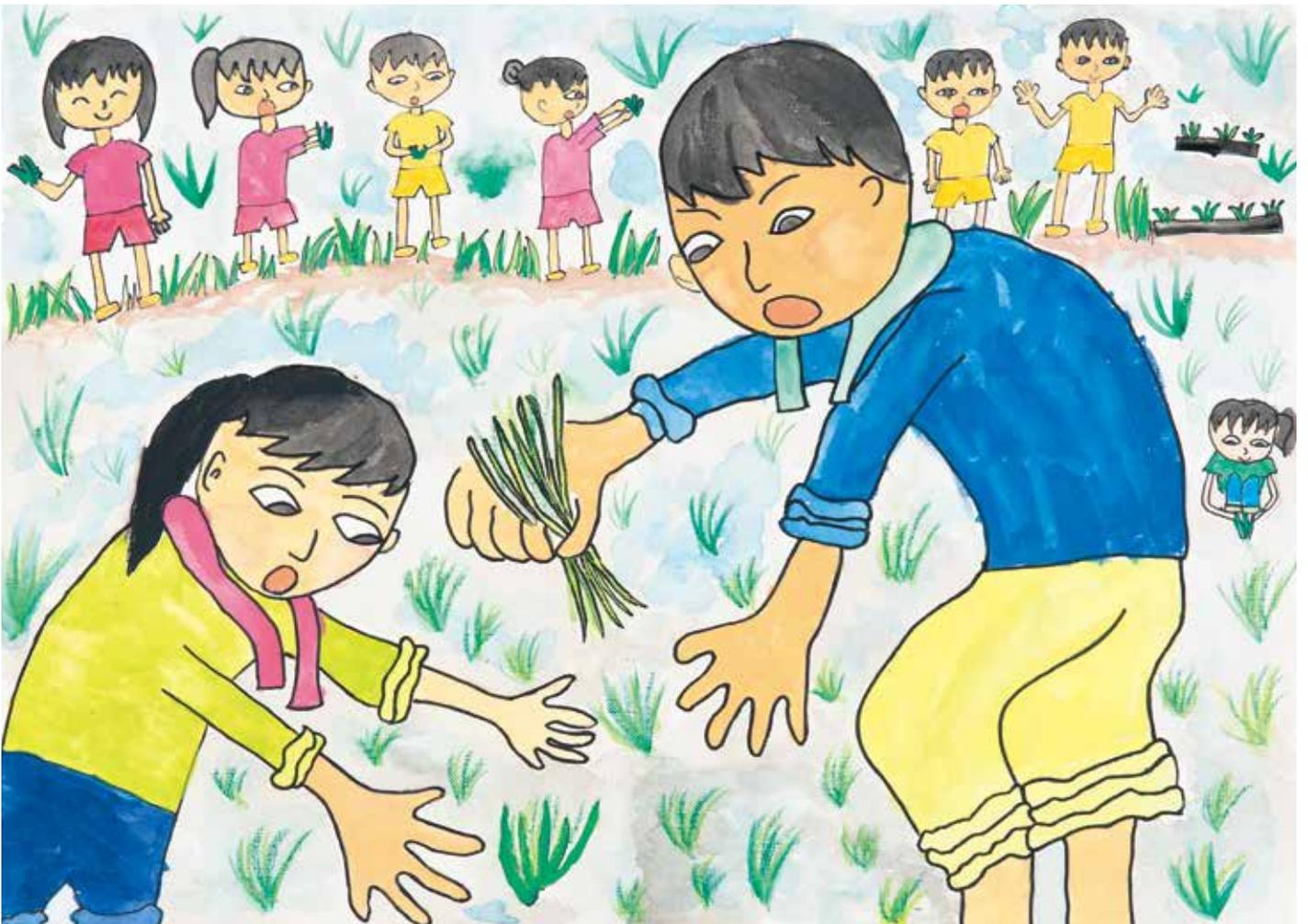
図画部門

じえいえいいわ て けん ご れんかいちようしょう
JA岩手県五連会長賞

「初めての田植え」

み かみ ま お
三 上 真 央

きたかみ しりつ えづり こしょうがっこう 5年
北上市立江釣子小学校 5年



図画部門

ゆうしゅうしょう
優秀賞

「ごはんをいっぱい食べて大きくなってね」

や え が し ゆ う な
八重樫 由 菜

きたかみ しりつ えづり こしょうがっこう 6年
北上市立江釣子小学校 6年



図画部門

ゆうしゅうしょう
優秀賞

「おじいちゃん おいしいお米できたね！」

さ とう り さ
佐 藤 理 沙

とおの しりつとおの にしちゅうがっこう 3年
遠野市立遠野西中学校 3年



「協力の美味しさ」

さとうめぐみ
佐藤 愛望

いわてけんりついちのせきだいいちこうとうがっこうふぞくちゅうがっこう
 岩手県立一関第一高等学校附属中学校 1年



「よろしくお願いします」広い田んぼに、元気の良い声が響いた。昨年、小学校六年生の私達も同様だった。あいつが終わると、たくさんの人達が田植えを始める。機械で植えれば速いのだが、すべて手作業で植えるのだ。すると、農家の方は笑顔で語る。

「みんなで作ったお米は特別美味しくなるぞ。さあ、頑張ろうね。」

私は、お米なんて、どれも同じなんだろうなと思いがけながら、シブシブ苗をつまんだ。すると横で楽しそうな声が聞こえてくる。

「今年最後の田植えだ！おじさん達に俺らの団結パワー見せてやれ！」

クラスの男子は、言葉通りに協力して、どんどん先に進んだ。この田植えは、三時間程で終わった。次に行う作業は稲刈りで、秋に実行する予定だ。私達は、お米につける名前とイラストを考えていた。その年は雨が多く、風も強かったため、名前は「雨ニモマケズ」に決まった。名前が決まり、稲刈りの準備が始まった。杭を組み立て、稲を干せるようにした。稲を束ねるための藁は、農家の方が用意してください、順調にスタートをきった。

「ああ。腰が痛い。大変じゃないんですか？」もくもく作業するおばさんに当たり前な疑問をぶつけてみた。すると予想外な答えが跳ね返ってきた。

「もう慣れっこだからねえ。それに、みんなが喜んでくれるために頑張るんだもの。むしろ楽しいわよ。」

私は少し刈っただけで疲れたのに、おばさんは笑いながら作業を続けたのだ。これだから私は自分の故郷、そして、心の優しい地域の人が好きなんだとお米作りを通じて感じさせられた。稲干し作業は重くて大変なので、リレーのように運んだ。仕事は予定より一時間も早く終わった。私達の学年目標のキーワードは『強い団結力』だ。この稲刈りに引き続き、私達の『団結力』は脱穀作業まで続いた。

上の稲は背の高い人が下ろす。

「おおい。これ藁がほどこけるから集めて！」二、三人で駆けつけて集めた。ふと、私は米作りをしていて、変わった事に気付いた。それは、男女共に仲良くなっている事だ。いや、仲良くなった事に間違いはないのだが、私の意味する仲良しは『助け合い』が出来るようになったのだ。脱穀が終わってからというもの、話し合いが自然に進められ、本当に良いクラスになった。お米の注文が殺到し、休み時間も、放課後も、笑顔を絶やさず、米の袋詰めをした。これこれ百五十程詰めたのではないだろうか。すべての作業が終了した時、全員を集めて先生は、

「みんな、よく頑張ってくれたな。俺は、この米作りでクラスの雰囲気明るくなってすごくうれしいぞ。」

私も思っていた事だった。手間をかけて作ったお米は、一人暮らしのお年寄り、注文を頂いた方にお配りした。私の家にも、雨ニモマケズのパッケージを見つけた。その日は祖父が、私よりも喜んでた。

「孫が作ったお米か。早く食べたいな。」

私はその日、米作りの事をたくさん話した。農家の方が仰ったあの言葉

「みんなで作ったお米は特別美味しいぞ。」

これを疑っていた私は何処に消えたのだろうか。自分達が何時間も努力した証し。そして米作りにあたって築いた団結力は、私達の米が結果へ導いてくれたのだと感謝している。

今も小学校での友達とも繋がりが続いており、離れていても寂しい事はない。私は、家での米作り作業を手伝うようになった。この米作りは、地域の誇りであり、伝統である。そして、心の豊かさも育ててくれるのだ。小学生が田植え道具を持って登校した。今年もまた、あの広い田んぼに、小学生達の元気な号令が響いたのであろう。

「よろしくお願いします！」

「米作り、一年」

お や ま き ら
小山 希 来

いちのせき しりつむろね ひがししょうがっこう
 一関市立室根東小学校 4年



今は八月の下じゅんです。米の収かくまであと一ヶ月ぐらいいになりました。いねは、少しずつ黄色くなり、実がおじぎをするように下がってきています。今年もほう作です。

私は、毎年米作りのお手伝いをしています。それは、大人になったら米作りをしてみたいと思っていますからです。今年は、分かったことや大切だと思ったことを記録することにちようせんしてみました。

五月は田植えの季節ですが、田んぼは去年のいね刈りをしたままなので、刈りかぶがのこっています。刈りかぶを集めて、土をととのえて、水をはり、ようやく田植えができます。機械で植えるのは完全ではありません。機械で植えられない所があり、そこは手で植えるのです。学校の帰りに、私はぐうぜんタオルを持っていたので、す足になり、おじいさんといっしょになえを植えました。大きな石が足の下にあると取りのぞきました。田んぼいっばいに植えられたなえを見て、じょうぶに育ってほしいと思いました。おじいさんは、一仕事終えて、ほっとしていました。

田植えの後は、私にできることはありませんが、おじいさんは、水のかんりをします。水の量の調せつです。私には全然わかりませんが、おじいさんは田んぼを見てすぐに判断して、水の出る所を半分開けたり、全開にしたりします。水を入れはじめてもまだ足りない時には、続けて水を出したりもします。こんなおじいさんを見ると、米作りのプロなんだなとしみじみと思います。

今年は夏がすごく暑く、いねはぐんぐん成長しました。

ここでもう一つ大変な仕事があります。それは、草を取ることです。いねが育つにつれて草もどんどのびてきます。いねは同じ高さに成長していますが、草はイネよりも二十センチぐらいとびぬけています。そのため、草といねの区別はつきませんが、草は根っこもはって取りにくいのです。おじいさんは、汗びっしょりになって草をぬきます。大切なお米です。草ではなく、いねにたくさん栄養分がいつてほしいです。おじいさんは、田んぼのまわりの草刈りもして、いね刈りを待つだけになりました。

このごろ思うことがあります。それは「ごはんの味」です。一つは、一年間のうちでも味が変わってきていることです。また、同じ種類のなえを植えても、年によってびみょうにちがうことです。今年とれた米の味が今から楽しみです。なりません。新米を食べるのが今から待ちどおしいです。これからもおじいさんに米作りをがんばってほしいと思います。私もできる限りお手伝いをしたいと思います。

一年間記録した私の「お米ノート」には、ぎ間の答えや、田んぼのじょうたい、毎月の仕事のこと、そしていねを干す時のポイントなどが書かれています。来年も米作りのことを記録していきたいと思っています。

「幸せの欠片」

いずみな た ひ な
泉 田 陽 菜

もりおか しりつほくりょうちゅうがっこう
盛岡市立北陵中学校 3年



私は、あの日食べたおにぎりの味を、絶対に忘れない。私の祖父母の家には、大きな田んぼやビニールハウスがあつて、毎年沢山のお米や野菜、果物を育てている。トマト、ピーマン、ブルーベリー、ぶどう、すいか、メロンなど、美味しい物は数多くとれるけれど、その中で私が一番大切に思うのは、お米である。いつも私の家においてお米を送ってくれるので、私や弟は小さい頃から毎日このお米を食べて育ってきた。皇居に献納したこともあるお米で、とてもおいしいし、農薬を出来るだけ使わないで作った安全な米なので、地元のみつくりドンキーでも扱われているらしい。そんな素晴らしいお米を、この十五年間、毎日食べられたことは、本当に幸せだと感じている。

でも、その幸せを改めて強く実感させられる出来事が起きた。それは、私が四年生だった年のあの日、三月十一日に起きた、東日本大震災である。私達が住む地域では、二日後の夕方まで停電になっていた為、炊飯ジャーでご飯が炊けなかったし、オール電化でガスではなくIHクッキングヒーターの為、お湯を沸かすことすらできなかった。ジャーに残っていたお米も、冷蔵庫に入っていた食料もちやうど少なくて、しばらくの間はスーパーの長蛇の列に並んで、決められた数の限界まで買った食べ物で乗り切っていた。けれど、停電二日目に祖父母から電話が掛かってきて、

「大丈夫か？じいちゃん達の米食って、元氣出せな。」

と言われた。米が炊けない事を話すと、祖父母の家の方では停電が起きていなかったようで、驚いていた。そして、

「じゃあ今すぐあつたけーご飯持つてくから、待つてろ。」

と言われ、すぐに電話が切られた。——その約二時間半後、温かくて大きなおにぎりをいっぱい持った祖父母が家に来た。ガソリンだつて貴重なのに、遠くから車でわざわざ来てもらつて、本当にありがたかつた。久しぶりに温かい食

べ物を口に入れた瞬間、涙で視界がにじんだ。しょっぱいおにぎりは、かめばかむほどお米の甘みが出てきておいしかつた。その日はとても寒い日だつたけれど、私たち家族は身も心もぽっかぽかになった。

お米は人を幸せにする。ある時は、寝起きの私がジャーを開けたとたん、ふわあつといいにおいていっばいになり、それにつられてついつい朝から盛つてしまふ、山盛りごはん。またある時は、午前中の授業が終わりに近づく頃、待ち遠しくなる愛情と栄養たつぷりの母のキャラ弁。放課後部活で三時間、思いつ切りテニスをした後の、貴重な夕ごはん。野外炊飯で友達と作った、思い出いっばいのカレーライス。大会での試合前、パワーをつけるために食べた、ちよっぴりすっぱい梅干しおにぎり。事あるごとに、家でお祝いの度出てくる、赤飯やちらし寿司。具合が悪くても食べたくなるおかゆ。お茶漬けやオムライス、チャーハンも親子丼も、全部おいしい。卵かけご飯や納豆ご飯も飽きないおいしさで、時々かけるすじこやたらこ、いかの塩辛ごはんも大好きだ。パン屋に行つて一番最初に探すのも、小学校の給食で出るパンの中で一番好きだつたのも、米粉パンだつた。家族の為にといだお米や、とぎ汁の肥料をあけて元気に咲く家の花を見ても嬉しくなる。田んぼで風になびく稲穂も、きれいな田んぼアートも、きつと、みんなにとつての「幸せの欠片」なのかなと思う。

甘くて、ふんわりやさしい味。光を浴びて、もやもやと湯気を立てる、真っ白のまあるいきらさら。これは、今日のわたしの朝ごはん。いつもと同じ朝ごはん。とびきりおいしい朝ごはん。これからも、この祖父母の愛が詰まつたお米一粒一粒を大切に食べて、いつまでもあの味や温かさをお忘れずに生きていきたい。

「はじめてのもちつき」

おい かわ は づき
及 川 葉 月

おうしゅうしりつたわらしやうがっこう ねん
 奥州市立田原小学校 3年



「葉月、もちつき行くからね。」

とおばあちゃんが、にこにこしながら言いました。わたしもにこにこえ顔になりました。

明日は、地いきのみなさんともちつきをする日。その米は、上級生が、学校田で大切に育てた米です。わたしは、もちつきをしたことがないので、

「明日、楽しみだね。」

と前の日から友達たちとも話しながら、わくわくして待っていました。

「こんにちは。よろしくおねがいます。」

みんなで、元気にあいさつ。

その後、会場には、待ちに待ったふかしたもち米がとうちやく。あつあつのゆげが出ています。ほのかなもち米のにおいも、あたりいっばいに広がりました。

やり方を教えてもらった後、さあ、もちつきのはじまりです。一番さいしよに、史結さんがつきました。

「よいしよ。よいしよ。」

自ぜんに、みんなのかけ声がわきあがりました。史結さんは、とても上手にもちをついています。すごいな。わたしもあんなふうにできるかな。どきどきしながらじゅん番を待っていました。

「いよいよ、わたしの番です。きねっついで外に重い。それを持ち上げると、もちもくっついてきました。上手くうす

のまん中にきねをつけるか心ばいでしたが、思いっきりぶり下ろしました。何回かは、いきおいあまって、うすにぶつかってしまふこともありました。

「だいじょうぶだよ。」

おばあちゃんのやさしい声が聞こえると、安心してつづけてつくことができました。

もちは、あんこもちにして食べました。おいしい。今まで食べたことのない特べつなあじでした。地いきのみなさんにお世話になったもちつき。本当にありがとうございました。



「はじめてのおにぎりづくり」

きく ち とも か
菊 池 智 果

おうしゅう しりつ きざいく しょうがっこう ねん
奥州市立木細工小学校 1年



「なんでおべんとうをつくっているの。」

あさ、にかいからおりてくると、おかあさんとおねえちゃん、たまごやきをやいていました。おいしそうなからあげもあります。

「おでかけするからだよ。」

おかあさんは、いそがしそうです。

「ともかもやる。」

わたしは、いそいできがえて、てをあらいました。

おかあさんがおにぎりをにぎっています。ゆびをさんかくにまげて、ぎゅっ、ぎゅっ。みぎてでひっくりかえして、また、ぎゅっ、ぎゅっ。なんかいかくりかえすと、きれいなさんかくのおにぎりができます。

「ともかも、おにぎりつくる。」

あつあつ、ほかほかのごはんをラップにのせて、なかにうめぼしをいれました。ラップをくるんとまるめて、にぎってみました。おかあさんとおなじように、ぎゅっ、ぎゅっ。

「あれえ、くずれてきた。」

にぎったおにぎりが、パカッとわれてしまいました。

「もうすこし、ちからをいれてごらん。」

おかあさんにおしえてもらって、さっきよりつよく、ぎゅう、ぎゅう。

「わあ。へんなさんかくになっちゃった。」

おかあさんみたいにつくるのは、むずかしいなあ。おかあさんがやっていたみたいに、ゆびをさんかくにしてやって

みました。

「わあ、だんだんじょうずになってきた。」

さんこめのおにぎりは、だいせいこう。やったあ。おかあさんにもごにこしていました。

できたおにぎりと、おべんとうをもって、うみにいきました。うみのちかくにくるまをとめて、たべました。

「でこぼこさんかくのおにぎりもおいしいな。」
パパもにごにこわらってたべています。またみんなのためにおにぎりをつくりたいなあ。



「米一粒の大切さ」

きく ち みずき
菊 池おうしゅうしりつ きざい くしょうがっこう ねん
奥州市立木細工小学校 6年

「米一粒も流さねえようにとぐんだぞ。」

妹の美桜が米とぎをしていると、ひっこが言いました。私が米とぎをしていても同じことを言います。

「ひっこ、どうして美桜にも私にも同じこと言うの。」

何度も同じことを言うので、少しむっとして聞いてみました。

「それは、米一粒でも大切だからよ。」

「米だったら親せきの家からもらえるじゃない。」

私の家では、今は米作りをしていないので、もらって食べています。大切ではないとは思わなければ、一粒くらいこぼすのは、仕方がないと思っていました。

「今は米作っているところは、全部自分の家でするけれど、昔は、十五、六けんの家がいつしよになって田植えをしたもんだ。おらの家でもそうだった。機械なんてねえんだもの。並んで五列ずつ植えたもんだ。」

学校でも田んぼで米作りをしています。機械を使わずにやるように田んぼの先生の春男さんが中心になって体験させてくれます。田植えをする時は、高学年は二列、低学年は一列植えました。昔の人は一人でたくさん植えていたんだなと思いました。

「だったら、早く終わったんだね。」

学校は今年で全校で十一人になったので一時間半ぐらいで田んぼの半分くらい植えました。

「そんなことはねえぞ。田んぼは一つでねえもの。一週間

はかかったぞ。こしが痛くなってな。」

私は最初のむっとした気持ちがなくなってもっと聞いてみたくなりました。

「それじゃあ、休む時は、おいしいものを食べていたんだね。」

学校では、田植えが終わると、あんもちやしうゆだんごを食べます。みんなの楽しみです。

「おいしくないわけではないけれど、たばごときには、生のうどの皮をむいてみそをつけて食べたな。あとは、小麦まんじゅうさ。」

どうしておにぎりを食べなかったんだろうと思いました。おにぎりのほうが力が出そうなのに。

「米なんてもつたいなくて食べられねがった。米一粒でも大切にしたもんだ。」

今は、機械を使うので米作りに時間がかからなくなっています。けれど、ひっこは昔の農作業の大変さを知っています。だから、米とぎのとき、米一粒でも流さないように言うんだと分かりました。でも、農作業が機械化で楽になった今は、米を大切にしていなくてしょうか。そんなこととはないと私は思います。昔も今も米作りをしている人は、自分が育てたお米を大切に思っているはずですよ。心をこめて作ったお米一粒でも大切にすることを私はひっこから学びました。

総 評

審査委員長



岩手県教育委員会
委員長
岩手 八重樫 勝

八重樫

勝

四十回目を迎えたこのコンクールに、今年も多くの力作を応募していただき、大変ありがとうございます。ありがとうございました。

審査員一同、すばらしい作品にワクワクしながら、厳正に審査に当たりました。

このコンクールは、日本の主食であるごはんやお米について考えたこと、体験したことや、農業の大切さや働く意義について考えたこと、家族との関わりについて考えたことなどについて、作文や図画で表現することを目的に実施してきました。

四十回を数える歴史のあるコンクールです。毎年応募している友だちもいます。全校を挙げて取り組み、たくさん作品を応募している学校もあります。特に今年には中学校のがんばりが光りました。このコンクールに寄せる期待の大きさを感じています。

県の審査会は、第一次を十一月に実施し、作文・図画それぞれ九点、合わせて十八点を選び、全国コンクールに応募しました。

全国コンクールでは上位入賞はありませんでしたが、優秀賞に作文二点、図画一点が入賞し、岩手の作品のレベルの高さが評価されました。

十二月に県の二次審査を行い、各賞を決定しました。入賞した皆さん、ご家族の皆さん、そして指導に当たられた先生方にお祝いを申し上げます。

作品全体を通して、家族や地域の方々との触れ合

いの様子がよく表現されており、家庭や地域の中で子どもたちが成長している様子や温かさが伝わってきました。

〈図画の部〉

・表現の巧みにこだわらず、おいしい！ 楽しい！ 等表現豊かな作品が多く、特に低学年の作品から元気をもらい、うれしい気持ちになりました。

・米づくりのために田植えから収穫まで、家族が苦労していることへの感謝の気持ちが溢れている作品が多かった。

・絵画の効果的な表現の要点として、動きのある人物、その人物と背景の調和、着色とタッチの強弱のバランス等が求められるが、入賞作品はどれもよく表現されている。

〈作文の部〉

・小学生は学校や地域、家庭での米作り体験や、家族・自分とご飯の身近な関わりの中で感じたことを素直にまとめている。

・中学生は食の大切さや感謝の思いを、社会と関連付けて考え、表現している。ごはんやお米を通して、社会、経済等に目を向け視野の広がりが感じられる。

・規定の文章量を書き上げること、文字を丁寧に書くことなどにも粘り強く取り組んでほしい。

世界には明日食べる物にも困っている人がいます。一粒の米も大事にする人になりましょう。そして、たくさんごはんを食べて元気で岩手を支える人になりましょう。

図画部門を審査して



元岩手県国公立幼稚園協議会
会長
伊藤 満久

伊藤 満久

本コンクールも四十回の記念すべき回数となり、まさに伝統のあるコンクールとなりました。まずはここまで続いていることの重みに敬意と感謝の気持ちでいっぱいです。そして今年も多くのすぐれた作品と出会い、充実した審査が出来たことは本当にうれしい限りです。

応募作品は小中合わせて二五八点（二十九校）でしたが、従前にも増して校内で厳選された質の高い作品が多く、各校の熱心な取り組みが窺われました。審査会では観点を次の三点にしぼり審査致しました。

①小学校の特に低学年の部では表現力とか技法にこだわらず、楽しく元気がいっぱい溢れているか。②おにぎり（お米）の主題の明確さが強く表現されているか。③表現力を高めるための効果的な技法を工夫しているか。

以上の観点で選定した九点を全国審査に推薦しましたところ、全国の応募総数七二、〇四三点から今年も優秀賞に一点受賞致しました。岩手県からの優秀賞が続いており、本県の絵画への取り組みが高い評価を受けていることの証であり、喜ばしい限りです。

ここでは県コンクールで受賞した優秀賞以上の作品について選評いたします。

全国で優秀賞を受賞するとともに、岩手県知事賞を受賞した藤原悠奈さん（花巻市立内川目小二年）の「おいしいごはん食べるぞ」は「うわあ！おいしそう」と口を大きくあけている目線とてんこ盛りのごはんが湯気で結びついて、ごはんのおいしさが画面いっぱい広がっている大変迫力のある秀作です。

次に岩手県教育長賞の大船渡市立綾里中学校一年の古

川このみさんの「田んぼとかかし」はかかしを大きく描き、しかも色彩を周囲と反対の赤色系で着色し（補色関係）目立たせ画面を引き締めています。働いている人物の動勢、稲穂のきめ細かい表現、近景・中景・遠景と効果的な田園風景がよく描かれています。東北農政局岩手支局長賞受賞の作品「さあ、食べるぞ」（二関市立老松小学校一年、佐藤未唯奈さん）は、画面いっぱいにも食べようとする人の迫力のある目、口もと、手が一体となった臨場感いっぱいの力作です。特に「ごはんを白い紙ではつたり、服の模様をバスで色数を多く使っていいねに着色するなど一年生とは思われない努力に感銘を受けました。JA県五連会長賞の北上市立江釣子小五年三上真央さんの「初めての田植え」は植えようとしている人とそれを手助けしている人の二人の呼吸が一致している様子が十分伝わってきます。米の収穫までいかに手数が多くかかるのか絵に表現することのすばらしさがよく分かる秀作です。

次に岩手県の優秀賞二点の選評をします。まず「ごはんをいっぱい食べて大きくなつてね」（北上市立江釣子小六年、八重樫由菜さん）は幼児に食べさせようとしている人、食べ方を見せようとしている人、口の周りにごはん粒をつけながらも食べようと一生懸命になっている幼児、三人三様のお米に対する感謝の気持が大変見ている人の心に沁み込んでいる絵です。背景に米づくりをしている人々の姿も描いて一層その大切さを伝えようとしている力作です。優秀賞の二点目遠野市立遠野西中学校三年佐藤理沙さんの「おじいちゃんおいしいお米できたね！」は画面中央に豊かに実った稲束を孫に見せているおじいちゃんのやさしそうな笑顔とそれを賛えている人の対話が聞こえてきそうな温かい雰囲気伝わってくる秀作です。

学校奨励賞は応募数八点のうち入賞が二点と最も多く受賞した北上市立江釣子小学校です。全校的な取り組みが高い評価を受けました。

どの作品もお米やごはんという日本人の主食の大切さと稲作への感謝の気持ちに溢れた作品ばかりで、改めて主催者に対しお礼申し上げ講習といたします。

作文部門を審査して



盛岡市教育委員会学校教育課
指導主事
小林 満

小林 満

第四十回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールに、今年も多数の児童生徒の皆さんが応募してくださいました。また、毎年意欲的に取り組む子どもたちも見られ、たいへんうれしく思いました。全国優秀賞及び岩手県知事賞を受賞した佐藤愛望さん（一関第一高等学校附属中学校一年）の「協力の美味しさ」は、稲作体験をもとに、感じたことを豊かに表現しています。一文を短くしたきれのよい表現が見事で、自分の住んでいる地域や働く人々の素晴らしさ、米作りと共に団結していく学級の様子がよく伝わってきました。

岩手県教育長賞を受賞した小山希来さん（一関市立室根東小学校四年）は毎年、作品を応募している児童の一人です。今年度も昨年度に引き続き全国優秀賞を受賞しました。稲作の様子を「お米ノート」に記録する努力が実り、その成果が作文によく表れておりました。

東北農政局岩手支局長賞を受賞した泉田陽菜さん（盛岡市立北陵中学校三年）の「幸せの欠片」は、震災時の体験から、自分と食とのかかわりを見つめ直し、感じたことを巧みに表現しており、心に迫る作品でした。

JA岩手県五連会長賞を受賞した及川葉月さん（奥州市立田原小学校三年）の「はじめてのもちつき」は、はじめてもちつきをする喜びがよく伝わってきました。様子の表し方を工夫して書くことが大変上手でした。

優秀賞を受賞した菊池智果さん（奥州市立木細工小学校一年）の「はじめてのおにぎりづくり」は、お弁当づくりのお手伝いを通して家族のふれあいや頑張っている様子がよく伝わってくる楽しい作品です。お父さんのうれしい気持ちも想像できました。

同じく優秀賞を受賞した菊池みずきさん（奥州市立木細工小六年）の「米一粒の大切さ」は、「ひっこ」とみずきさんの会話を効果的に使うことで、一粒一粒のお米を大切にしていこうという気持ちの高まりがよく伝わってきました。

（学校奨励賞の一関第一高等学校附属中学校は、出品数も多く、全国コンクールでも優秀賞を受賞するなど、意欲的な取組が高く評価されました。）

これらの受賞作品の他にも、食に関する多様な体験をもとに、自分の生活を見つめ、読む人によく伝わるようにしっかりと書き上げている優れた作品が多く見られました。どの作品からも、子どもたちの体験を通じた感動、ごはん食を食べられることへの感謝の思い、温かな家族の愛情がよく伝わってきました。

稲作や食事づくりなどの体験は、食を見つめるにとどまらず、自分の住んでいる地域や、自分の生活を見つめる貴重な機会となり、社会で自立する力身に付けることにもつながります。

今後も、様々な体験を通して食との関わりについて考え、表現する機会を大切にするとともに、今後、さらにたくさんの子どもの作品が寄せられることを期待して、講習といたします。

〔全国コンクール〕

◆**優秀賞**

藤原悠奈 花巻市立内川目小学校 2年 「おいしいごはん 食べるぞ」

〔岩手県コンクール〕

◆**岩手県知事賞**

藤原悠奈 花巻市立内川目小学校 2年 「おいしいごはん 食べるぞ」

◆**岩手県教育長賞**

古川このみ 大船渡市立綾里中学校 1年 「田んぼとかかし」

◆**東北農政局岩手支局長賞**

佐藤未唯奈 一関市立老松小学校 1年 「さあ、たべるぞ」

◆**J A岩手県五連会長賞**

三上真央 北上市立江釣子小学校 5年 「初めての田植え」

◆**優秀賞**

八重樫由菜 北上市立江釣子小学校 6年 「ごはんをいっぱい食べて大きくなっね」

佐藤理沙 遠野市立遠野西中学校 3年 「おじいちゃん おいしいお米できたね！」

◆**学校奨励賞**

北上市立江釣子小学校

◆佳作

新山 怜奈 北上南小

3年 「田うえをしたら
気分がさいこう」

小林麻亜弥 真城小

5年 「田植え」

菅原 悠斗 老松小

1年 「ぼくのだいこうぶつ」

大欠 里緒 江釣子小

4年 「遠足のおにぎりは
わたしが作るよ！」

佐々木優羽 内川目小

1年 「ツナのおにぎり大すき」

八重樫恵理 飯豊小

6年 「お米っていいな」

菊池 叔奏 北上南小

3年 「おいしいお米になあれ」

高橋 伯 黒沢尻北小

5年 「いただきます」

菅原 一真 衣川小

1年 「おいしい きゅうしょく
いただきます」

菊地すみれ 見前中

1年 「運動会後のごはん」

及川 和琉 北上南小

3年 「今から おいしい
夕ごはん」

安久都純香 見前中

1年 「お母さんのご飯
おいしいな」

奥澤 卓弥 老松小

1年 「いただきます」

船越 心望 見前中

1年 「おいしいお米」

及川 輝隆 真城小

5年 「田植え」

阿部 柚月 見前中

1年 「ちぎって一口」

高橋明希子 江釣子小

4年 「おいしいおすしを
ひとりじめしないで！」

濱元日菜子 見前中

1年 「兄妹でゴハン」

細川 千央 永井小

4年 「自分でたいた
おいしいごはん」

井上 桃香 見前中

1年 「おにぎり大好き!!」

【全国コンクール】

◆優秀賞

- | | | | |
|-------|-----------------|----|-----------|
| 小山 希来 | 一関市立室根東小学校 | 4年 | 「米作り、一年」 |
| 佐藤 愛望 | 県立一関第一高等学校附属中学校 | 1年 | 「協力の美味しさ」 |

【岩手県コンクール】

◆岩手県知事賞

- | | | | |
|-------|-----------------|----|-----------|
| 佐藤 愛望 | 県立一関第一高等学校附属中学校 | 1年 | 「協力の美味しさ」 |
|-------|-----------------|----|-----------|

◆岩手県教育長賞

- | | | | |
|-------|------------|----|----------|
| 小山 希来 | 一関市立室根東小学校 | 4年 | 「米作り、一年」 |
|-------|------------|----|----------|

◆東北農政局岩手支局長賞

- | | | | |
|-------|-----------|----|---------|
| 泉田 陽菜 | 盛岡市立北陵中学校 | 3年 | 「幸せの欠片」 |
|-------|-----------|----|---------|

◆JA岩手県五連会長賞

- | | | | |
|-------|-----------|----|-------------|
| 及川 葉月 | 奥州市立田原小学校 | 3年 | 「はじめてのもちつき」 |
|-------|-----------|----|-------------|

◆優秀賞

- | | | | |
|--------|------------|----|----------------|
| 菊池 智果 | 奥州市立木細工小学校 | 1年 | 「はじめてのおにぎりづくり」 |
| 菊池 みずき | 奥州市立木細工小学校 | 6年 | 「米一粒の大切さ」 |

◆学校奨励賞

- 県立一関第一高等学校附属中学校

◆佳作

菊池紗央理	木細工小	1年	「ゆっかのために」	長尾 遼	一関一高附属中	2年	「ゴリラ」が見た米づくり
菊池 望夢	木細工小	2年	「ととはこっくさん」	泉 真澄	一関一高附属中	3年	「祖母とおこめ」
菊池 怜史	木細工小	2年	「じいちゃんのみそにぎり」	佐藤 汐里	滝沢南中	2年	「農業の大変さ」
菊池 優花	木細工小	1年	「はじめてのおにぎり」	佐藤 春菜	城東中	1年	「未来を支えるお米」
菊池 苺	木細工小	1年	「おにぎりづくり」	澤田 菊世	城東中	1年	「お米のピンチを 乗り越えろ」
菊池 美桜	木細工小	1年	「ははのひのちらしずし」	佐久間結菜	花巻北中	1年	「私の源」
小山 樹生	室根東小	1年	「ごはんに、たしざん」	吹切 真帆	宿戸中	1年	「私とお米のつながり」
菊池 飛鳥	木細工小	5年	「新米は最高」				
菊池美乃里	木細工小	5年	「ごはんて元気」				
佐藤 快成	石切所小	5年	「食事は宝物」				
菊池 明莉	木細工小	4年	「にこにこの朝ごはん」				

第40回「ごはん・お米とわたし」 作文・図画コンクールの概要

応募点数

学校	作文	図画	合計
小学校	18	142	160
中学校	62	16	78
計	80	158	238

応募締切日

平成27年9月11日

県コンクール第1次審査会

平成27年10月27日（全国コンクール推薦作品18点を決定）

県コンクール第2次審査会

平成27年12月11日

表彰式

平成28年2月5日 盛岡市「ホテルメトロポリタン盛岡 本館」

主催

岩手県内J A・J A岩手県中央会

後援

岩手県・岩手県教育委員会・東北農政局岩手支局
いわて純情米需要拡大推進協議会・J A岩手県信連
J A岩手県厚生連・J A全農いわて・J A共済連岩手

審査員（敬称略）

審査委員長	八重樫 勝	岩手県教育委員会委員長
審査委員	伊藤 満久	元岩手県国公立幼稚園協議会会長
審査委員	小林 満	盛岡市教育委員会学校教育課指導主事
審査委員	藤田 昭栄	東北農政局岩手支局総括農政業務管理官
審査委員	星野 圭樹	岩手県農林水産部県産米戦略室戦略監
審査委員	菅原 和則	J A岩手県信連代表理事専務
審査委員	細川 修一	J A岩手県厚生連常務理事
審査委員	畠山 俊彰	J A全農いわて県本部長
審査委員	小原 市右エ門	J A共済連岩手県本部長
審査委員	畠山 房郎	J A岩手県中央会常務理事

※このコンクールに対するご意見・ご感想をお待ちしております。

JA岩手県中央会 農業対策部 〒020-0022 盛岡市大通一丁目2番1号 TEL019-626-8522
ホームページ<http://www.ja-iwate.or.jp/> Eメールアドレス nosei-ko@jaiwate.or.jp

みんなの**カ**で!



がんばろう!岩手

 JAいわてグループ



発行/平成28年2月5日

企画・編集・発行/JA岩手県中央会

印刷・製本/川嶋印刷株式会社



さあ、みんなで取り組んでいこう。
やっぱり国産農畜産物推進運動
～みんなのよい食プロジェクト～